

大分市議会議員政策研究会行政視察報告

大分市議会議員政策研究会では、福知山市と米子市を行政視察しました。
概要は以下のとおりです。

(実施期間) 令和6年1月29日～令和6年1月31日

(視察都市) 福知山市、米子市

(視察内容) 福知山市：移住・定住促進事業について
米子市：移住支援策について

[福知山市]

福知山市では、移住・定住促進事業について説明を受けた。

福知山市は、人口が令和5年4月1日時点で75,580人、面積は552.54km²であり、平成18年に旧福知山市、大江町、夜久野町、大江町の1市3町が合併した。北近畿地方の中央部に位置し、古くから商工業のまちとして発展している。移住のプロモーションをする際には、「ほどよく街で、ほどよく田舎で暮らしやすい地方都市」、「教育の選択肢が多い」、「北近畿の医療の拠点となっている」、「子育て世代が住みやすい」、「福知山市の中心地から車で1時間半圏内で、天橋立、伊根の舟屋群、城崎温泉に行ける」という内容を市の魅力としてPRしている。平成28年度から、市の直営として移住定住サポートセンターを開設し、移住相談や空き家情報バンクの運営などを行っている。各取組として、お試し住宅の運営（市営お試し住宅、地域版お試し住宅）や福知山暮らし体感ツアー、農山村地域空き家情報バンク制度、移住者交流会などがあり、中でもお試し住宅については、暮らしのイメージを持ってもらうことと、移住の準備期間として使ってもらえるよう最長1年まで入居が可能という特徴がある。令和5年12月末時点での移住実績は18世帯36人、移住希望登録は129世帯251人となっている。

課題や今後の展望としては、コロナ禍以降、人々の価値観や働き方が変化し、ニーズも多様化していることや、都市部の若者を中心に地方で活躍したいという動きが出ていることから、従来の施策に加え、地域おこし協力隊を活用し、「地域の新しい風」となる人材の呼び込みの検討や、地域の人や移住者の活躍を見える化して「人が人を呼ぶ仕組み」をつくることである。

委員からは、お試し住宅の運営や実際の入居期間等に関することや、移住希望者・移住者と地域の方との関わり方などについて質問が出された。



(福知山市での視察風景)

[米子市]

米子市では、移住支援策について説明を受けた。

米子市では、少子高齢化が進行し、本格的な人口減少社会になることが見込まれる中、市の人口減少傾向に歯止めをかけるため、平成 20 年 5 月 20 日に移住・定住の総合相談窓口を設置し各種取組を進めている。

米子市移住定住相談窓口では、I J U ターン希望者を対象に、就職、子育て、医療など移住・定住に関する様々な相談を受け付けているほか、移住検討者のニーズに応じて、地域情報の提供や市内ガイドを実施している。また、移住検討者に風土や日常生活を体感してもらうために、居住する住宅として市内の空き家を改修し、お試し住宅を実施している。また、とっとり暮らしアドバイザーとして、市が推薦した様々な分野の先輩移住者を紹介し、直接相談できるよう案内している。そのほか、移住者交流会や市内ガイド、ビジネス人材移住支援金、本社機能移転等による移住者支援補助金などの取組がある。

移住者数については、市町村の窓口への相談等を通して移住定住に結びついた方、あるいは市町村への移住の実態を把握している方として令和 4 年度は 361 人であった。

課題や展望として、「米子市まちづくりビジョン」では、県外からの移住者数について令和 2 年度から令和 6 年度の 5 年間で 2,500 人の目標値を定めている。今後の事業展開については、20、30 代の若い世代が就業のために移住するという市の移住者の特徴を生かし、若い世代への PR を強化し、県と連携した移住支援を行うことで、移住促進に努めていくとしている。

委員からは、移住者の移住理由や、今後目標としている若い世代に対する展開などについて質問が出された。



(米子市での視察風景)